

小学校・3学年・外国語科・アルファベットの大文字①

本事例は第3学年での実践ですが、研究開発学校であり、「外国語科」として「書くこと」も行っています。

育成を目指す資質・能力

活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
大文字を活字体で書くことができるようにする。

活動のねらい

身の回りにはアルファベットの大文字に見えるものが多くあることに気付くとともに、アルファベットの大文字を読んだり書いたりできる。

ICT活用のポイント

自分が見つけた大文字に見えるものをICT端末のカメラ機能で撮影し、その写真を見せたり、加工したりして相手に分かりやすく伝える。

本活動のねらいを確認

事例の概要

身の回りの大文字に見えるものをICT端末のカメラ機能を使って撮影・加工

加工した写真を学級で共有し、アルファベットの大文字について、やり取りを行う。

見つけた文字について交流と確認

- ・子供たちは、各自で身の回りからアルファベットの大文字に見えるものを探し、ICT端末のカメラ機能を使って撮影をする。その後、撮影した写真のどの部分が、アルファベットの大文字に見えるかが分かるように加工する。
- ・加工した写真を、学習支援ソフトで共有する。
- ・子供たちは、共有された写真について、何に見えるか教師と子供でやり取りする。その後、アルファベットの大文字と、それを見つけた友達の名前をワークシートに書く。
- ・子供たちは、身の回りにアルファベットの大文字に見えるものがたくさんあることに気付くとともに、アルファベットの大文字を読んだり、書いたりした。

小学校・3 学年・外国語科・アルファベットの大文字②

本事例は第3学年での実践ですが、研究開発学校であり、「外国語科」として「書くこと」も行っています。



【やり取りの様子】

【単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力を育成するために】

本活動を英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動にするためには、指導者が大型画面に子供が加工した写真等を映し出し、What alphabet letter is this? What's this? Can you find ~? などと、**子供に投げかけたり、子供同士で、Where is 'A'? Is this 'B'?**などとやり取りをさせることが大切である。



【学習支援ソフトによる共有画面】

【ICT活用のポイントの補足】

- ・身の回りのアルファベットの大文字に見えるものについて、口頭での説明や絵で伝達するよりも、**ICT端末で撮影した写真の方が相手に伝わりやすく、聞き手の関心を高めることができる。**
- ・写真を学習支援ソフトで共有することで、**板書や掲示に係る時間短縮を図るとともに、子供は各自のICT端末で写真を拡大して見やすくすることができる。**
- ・個人差が出やすい「読むこと」「書くこと」に関して、**子供が自分のペースで学習をすることができる。**



【アルファベットと友達の名前を書く様子】

○活用したソフトや機能

- ・写真撮影機能
- ・学習支援ソフトのファイル共有機能（プレゼンテーションソフトの共同編集機能でも可能）